

# 会議録

## 1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議（第4回）

## 2 開催日時

令和3年11月19日（金）午前10時00分から正午まで

## 3 開催場所

市役所 401 会議室

※梅川委員のみオンライン形式（Zoom）

## 4 出席した者の氏名

- (1) 構成員 西村幸夫、石田芳弘、佐分晴夫、服部敦、梅川智也、靱山貢、高橋秀治、小川征一、川義満、柴田浩行、久世高裕  
(順不同・敬称略)
- (2) 執行機関 永井経済環境部長、新原観光課長、小池観光課課長補佐、小澤観光課主査補
- (3) 関係課 企画広報課、歴史まちづくり課、産業課、環境課  
(別室にてモニター視聴)

## 5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
  1. 観光戦略の策定スケジュール (資料1)
- (3) 協議事項  
犬山市観光戦略（案）について
  1. 戦略の構成について (資料2)
  2. 観光戦略の体系について (資料3)
  3. 目標設定について (資料4)
  4. 重点プロジェクトについて (資料5)
  5. 方針別の施策について (資料6)
  6. コロナ禍からの回復プログラムについて (資料7)
  7. 戦略の評価と見直しについて (資料8)

6 傍聴人

2名

【資料】

(資料1) 令和3年度観光戦略 策定スケジュール

(資料2) 戦略の構成について

(資料3) 観光戦略の体系について

(資料4) 目標設定について

(資料5) 重点プロジェクトについて

(資料6) 方針別の施策について

(資料7) コロナ禍からの回復プログラムについて

(資料8) 戦略の評価と見直しについて

7 内容  
事務局

皆さん、おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまより、「第4回犬山市観光戦略会議」を始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。

前回の第3回は8月に開催で、それこそ新型コロナウイルスの影響でオンラインという形でしたが、現在、コロナ感染者数も小康状態が続き、約1年半ぶりにこの犬山での開催となりました。

また、今回、梅川委員につきましてはご都合が合わなかったということで、今回オンラインでの参加ということです。前方のスクリーンの方に映し出されておりますので、こういった形での参加となりますのでよろしくお願い致します。

それでは、本日の会議についてですが、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、昼12時までに終了というふうにさせていただきたいと考えております。

それでは、まず初めに西村会長よりご挨拶いただきたいと思います。お願いします。

西村会長

おはようございます。よろしくお願いします。

1年8か月ぶりということで、久々に来ましたら駅前が、駅が全然変わっておりまして、ホテルもできたり、立派な、本当にまちは変わるんだなと思っております。

コロナで、本来なら昨年のうちにこの観光戦略をつくる予定だったんですけど1年延びましたが、その分、専門部会の先生方、特に服部部会長を中心にこれまでに8回の会議を重ねていただいて、かなり熟成したものに、また結構ユニークなものになってきています。

今日の会議は4回目なんですけれども、ここで大枠を決めていただいて、次回が最終回となりますので、実質的な会議の中身の議論は今日が最後となっておりますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、最近ですけど、木曾川中流域に関して岐阜県の方が木曾川中流域の可児市、坂祝、美濃加茂、そして各務原、そうすると犬山まで入れて県をまたいで木曾川中流域を元気にしたいというようなことが動き始めております。私もその中に参加しているんですけども、岐阜県が犬山まで出張ってきて、一応どうも愛知県までご挨拶に来て協力関係で他とはやったことがないというふうに伺っていますけれども、一番当然中心になるので、ここで考えているような戦略がその意味でいうともうちょっと木曾川中流域まで広げて、他のところ

にも影響が及ぶような広域的なものになっていくんじゃないかなと思いますので、そこも含めてここでの議論は本当に重要じゃないかと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

事務局

ありがとうございます。

なお、本日も事務局の方に観光戦略策定支援業務委託の受託者であります株式会社国際開発コンサルタンツが参加させていただいております。よろしくお願ひします。

本日、総数 11 名全員の出席をいただいておりますので、会議が成立しているということを報告させていただきます。

また、この会議は公開で開催されます。この会議の様子についても、犬山市役所 301 の会議室でモニター公開するというふうになっております。

傍聴の方にお願ひします。撮影は、自席からの撮影を認めて、録音については個人のメモとしての利用に限り、切り取って公開するようなことはやめていただくというような扱いになっております。よろしくお願ひします。

会議の内容につきましては、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

会議につきましては、2 人の委員が署名することになっております。前回、榎山委員、それから高橋委員にご署名をいただきましたので、今回は小川委員、それから川委員にご署名をいただきたいというふうに思っています。よろしくお願ひします。

ではここで、事前に配付させていただいた資料の確認ということでお願ひします。

(資料確認)

事務局

今回、一部オンラインという形で梅川委員に参加していただいているので、画面で資料を共有しながら、お集まりの方はお手元の資料を見ていただきながらということを進めていっていききたいというふうに思います。

それでは、議題に入らせていただきます。以降の進行については会議規則に従い、西村会長にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

西村会長

よろしくお願ひします。

報告事項から説明していただきますけれども、議事の中身も相互に関連しておりますので、全体を説明していただいて、その後、ディスカッションしたいと思います。資料 2 から資料 8 までは、最終的に取りまとめる観光戦略の本体

の各章別の資料になっております。

それでは、事務局の方から資料の説明をまとめてお願いいたします。

(事務局説明)

西村会長

ありがとうございます。大変体系的で、かつユニークな計画がまとまってきているというふうに思います。

これから質疑なんですけど、まずその前に補足ということで、専門部会でこの議論をやったくださった服部部会長と、それから梅川先生がこのメンバーなので、少し補足のコメントをいただいて、それからディスカッションしたいというふうに思います。よろしいですかね。ちょっと突然ですけど。

服部委員

しっかり説明していただいたので、あまり補足することはないんですが、今日初出の資料として、例えば資料4「目標設定」というところがありまして、これはまだまだ議論途上のところであります。例えば、3つ目のホスピタリティのところ、部会であった議論からすると、犬山の人のおもてなしということを考えたときに、まさにおもてなしする側の市民の理解度とか満足度とか、市民がどれだけ参加して、その参加したことにどれだけ満足しているのか。また、観光に対する理解度は上がっているのかというところが本当は大事だろうという議論をしまして、その辺りなかなか指標化が難しいところなんですけれども、単にユーザー側の話とか、サービスの提供側だけではなくて、そこに参加する市民の視点というのがかなり重要じゃないかという議論をしておりましたので、その辺りまた今日会議の方でアドバイスをいただければいいなというふうに思っております。

あまり補足することはありませんので、これだけにしておきます。

西村会長

ありがとうございました。お疲れのところすみませんでした。

それでは、梅川先生、何かあればと思いますけど、いかがでしょうか。

梅川委員

おはようございます。

今日はそちらに行けずに大変申し訳ございません。ちょっと都合がつかなくてオンラインになってしまいました。

今ご説明いただきましたけど、本当に部会長以下でかなり議論をさせていただきました。構成を変えていただいて、非常に流れがよくなったという感じはいたします。

今回の観光戦略というのは、やっぱりこれまでの犬山の観光、お城あるいは

城下町を中心にして日帰り型の観光から、そうではなくて、これからはやっぱり体験だとか、あるいは滞在だとか、そういったものを重視する。あるいは、今までは産業中心でやってきた観光を少し市民レベルというのかな、市民みんなやっていこうという、コロナ禍を踏まえて簡単に言えば量から質に転換していくんだというような計画だと思うんですね。

そういう意味では、これすごくユニークなのは、これから10年間優先的にやっていこうという重点プロジェクトを7つ出したというのは非常にユニークで、この中身の精査というのものもあるんですけども、これがやっぱり今回の特徴になっているのかなというふうに思っています。

ただ、その前段としてのコンセプトから始まって基本理念があったり、将来像があったり、基本方針があったり、このところがちょっと頭でっかちかなという印象もありまして、この辺少し整理されると分かりやすいのかなというのは個人的に思いますけれども、この辺を少し皆さん方のご意見をいただけるとういかなというふうに思っていました。

それから、今回初めて出てきた目標設定なんですけど、これも実は戦略会議で随分議論したのですが、個人的に思っているのは、やっぱり住民に関する指標が必要だなと思っておりまして、私的には。

例えば具体的になんですけど、通常だったら住民の観光に対する理解度だとか、あるいは観光に対する満足度だとか、大きく指標なんでしょうけど、犬山の場合は最後の推進体制のところにも出てきましたけども、例えばまちづくり会議をやられますよね。このまちづくり会議に参加される方の数だとか、そういったことを少し指標にしていくとユニークになってくるのかなという印象を持ちました。

それから、最後にしますけど、これ専門部会でもちょっと私言わせていただいたのですが、とっても実は難しいことなんですけど、いろんなプロジェクトが最後に出てきますが、誰がやるんだという推進主体を明示しないと誰もやらないよと、やらなくなっちゃうよという話をさせていただきました。でも、これは多分市ご当局でいろいろ検討されて、なかなかそこまでは書き切れないということで今回出てこないのかなとは思いましたが、ここはやっぱりできれば行政がやるのか、民間がやるのか、あるいは市民がやるのか、少し大きくくりでもいいとは思いますが、どこが中心になって進めていくのかというその推進主体を明示できると、ぐっとリアリティーが出てくるんじゃないかなというふうに思いました。取りあえず、その辺でやめておきます。ありがとうございました。

西村会長

たくさん言いたいことがあるということでしたが、推進主体をどうするの

か、それからまた目標設定の具体的な考え方、特に市民を、それは服部先生もおっしゃいましたが、市民側の指標みたいなものが必要じゃないかと。

また、戦略としては若干頭でっかちかもしれないと、でもそこがユニークなところかもしれないんですけども、というふうなコメントをいただきました。ありがとうございます。

それでは、ここからはフリーですのでご意見をいただければと思いますけどどうでしょうか。ご質問でも構いません。

石田委員

服部さんと梅川さんのご指摘ですが、全くそのとおりです。僕も今聞いていまして、観光の語源は、これ西村先生に教えてもらったのかな、「光を観せる」ということですから、光というのは地域の自慢のことを文化と言うんですけどね。僕の委員になっておる肩書は犬山祭保存会ですから、その保存会の立場から言うと風と土の匂いがしない、この計画書は。

僕は、風土記というのを読んだことがありますし、NHKで新日本風土記というやつをずっと見ていますけど、新日本風土記は風に土の匂いを嗅ぐというナレーションから始まるんですよ。あれはもうしびれるんですけど、やっぱり自治体の行政はそこが大事だなと僕も思っていて、特に祭りをやっていますから。だから、これはこれでいいんですが、これをいかに犬山の市民に理解できるような提案にするかということが僕もう一つね。

梅川さんのご指摘のとおりで、僕もちょっと自分の経歴、個人的な経歴を話すのが恐縮ですが、私が市長になったときに犬山をこうするという総合計画をつくったんです。このときは、座長は河合雅雄先生にお願いして、河合先生の哲学も入れてやってくださいと言ってつくった。3年間かけてやったんですけど、市長が替わったら全部反故にされてしまった。どこか行っちゃった、本当に全部どこかへ行っちゃった。だから、そういうものですから、これはやっぱりこれだけの、僕から言わせると本当に客観的に見てそれぞれの分野で優秀な人、それから僕が日本のまちづくりで最も尊敬する西村先生というリーダーをお招きしてやることですから、やっぱり市長が一番重要です。今のをつくっただけにせずに、山田市政のレガシーとして少なくとも50年ぐらい先まで行くようなものをつくってほしいなと思っています。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

つまり、これがうまく流れていくような仕組みがこの中に内在していればほんと消されないと、それは何なのかですね。風と土の匂い、そういえばお祭りのことはあまり。確かに水は出てくるけれども。

石田委員

もう一つ、実は昨日、たまたまここにいらっしゃる小川さんと観光協会の面々と今度のインディゴの内覧をして、総支配人の説明を受けたんですよ。これはいいです。まさに風に土の匂いを嗅ぐようなコンセプトなんですよ、あのホテルは。

糸山さんもいらっしゃるけど、犬山は名鉄がちょっと骨格をつくってくれたみたいな観光都市なんですよ。あそこに、その流れも受け継いでいますね、インターコンチネンタル。さらに、ぐわっとグローバリーに、総支配人が国宝のお城、国宝の茶室、真ん中のインターコンチネンタルを3番目の国宝にしたいと言っていましたけど。感動しました。それぐらいのことです。

西村会長

ありがとうございます。

小川会長、何か、お名前が出ましたけれども。

小川委員

昨日ちょっと、やはり石田さんと一緒に行ってきたんですけども、やはり造りを見て、恐らく日本で初めてじゃないですか、渡り廊下から国宝有楽が見えてすばらしいですね。やはりこれまた協会としては、これの新しい対策を考えなくちゃいけないなと思っておりますし、それから先ほどより石田さんの方からお話がありましたように、市民にやはり企画には参画してもらいたいというのがまず第一ですね。

簡単な例を申し上げますと、今から10年ぐらい前になるんですけども、犬山の、当時はまだ今みたいに若い人だけじゃなくしてお年寄りも多かったですね。それで、お年寄が多いということはお金を落としていくんですよ。そのために、犬山中のお菓子屋さんに連絡をいたしまして、長椅子を出してトイレを貸すことをサービスしました。そうすると、お年寄りですから一生懸命トイレを探したり、それからお菓子屋さんでトイレを借りるということはそこに誰かが滞在しているんですけども、その人たちが見て買っていくというのがあるんですけど、それを菓子組合にも言ったんですけど、結局やらしてもらえなかったという、そんなまだ犬山市民としては観光に対する感覚が鈍いんですよ。

それをずっとこうやって継続して来たもんですから、それでコロナ禍でもありますし、まちづくりに関しても、やはり石田さんのおかげで地中化してから城下町の繁栄となってくるんですけども、その事態に合わせて何でもいかに店をやれということでも何でもかんでも、いろんな商売屋さんがあるんですけども、果たしてこれが今の時代にマッチするかどうかという問題もあると思うんですよ。ですから、これはやはり今の城下町に合った店を出していかないとかなんかというところから始まってくるといけないかなという気がし

てならないですね。

それで、今日これ資料を見させていただいたんですけど、先ほど石田さんのときにもあったように結果的には内容は同じようなものです、はっきり言って出てきているのは。だから、要は実行するかしないかです、これからは、今まで来ているのは。僕は根本的にそこだと思います。だから、実行するためにはここにあるように、例えば1年に1回とか会議して、進行状態というか、それをチェックしていくことも大切じゃないかというような気がしています。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

ちゃんと進行をチェックするのと、それから誰がやるかみたいなことをシンプルにやるということですね、ありがとうございます。

どうぞ、佐分先生。

佐分委員

一つ質問なんですけど、周囲を巻き込んでということについて、商売になる人についてはイメージが湧くんだけれども、一般市民が観光に携わって振興していくことはどういうふうと考えられるんだろうということで、抽象的に言えば、犬山っていいまちですねって、1回行きたいねと言われるのはうれしいかもしれないけれど、どっちかといえばごみが増えるとか、観光客のために規制が増えるとか悩ましい面も多いので、どういうイメージを持ってやられるのか。多分、随分議論されたと思うので、その点をお伺いしたいのと、実行主体については、自分で首を絞めるような話なんですけれど、大学はやる気が十分あって、今度も観光都市をつくろうとしていているし、既にご承知かと思えますけど市と協働で観光協会、補助金をとってベトナムのテレビで犬山の魅力を3回にわたって放送するというのをやっていますし、これからうちの大学、留学生が多くてグローバル人材を育てているので、そういう面で海外に戦略していきたいと思います。

名鉄さんには随分留学生を就職させていただいているので、こういうのは非常に大きい。犬山は既に産官学ではいろんな催物をしてきているので、その資料やその辺は協力してできると思うので、ぜひここでは主体に大学が入っていないので、多分大学では叱られると思うんだけれども、言うとな計首を絞めるので黙っておろうかとは思ったんですけど、やっぱりせっかくだから。

今は、賛否あるけど若い人がたくさん来ている。ついては大学生がSNSで発信しているので、随分影響力があるんですね。だから、彼らの若い感覚でこれから滞在型をどうやって考えていったらいいのかというのを決めていく。学生は相当やる気になるので、そういう面で継続性的の内容がある限り、学生は

どんどん入れ替わるけれど積極的にやってくれると思うので、その点ぜひお願いします。

西村会長

そう意味では、多様なプレイヤーが書かれていて、そういう人たちが人材育成みたいな、非常に重要な項目になりますよね。非常に重要なキーワードが出てきたということ。

石田委員

今ね、佐分先生に触発されたんですけど、今の市長も名経大の卒業生なので、だから絶好のチャンスですから、佐分先生の大学と市役所の行政ががっちと組めますからね。そうすると、ちょっとテーマとずれるかもしれませんが、今度の京都大学の件も、あれは犬山市民が応援しないかんですよ。

京都大学、やったでしょう。あれね、結局僕の観察では、猿学なんて今の世の中に役に立たんのですわ。それを文科省があんなものやめろと言っているわけですよ。根本的に間違いです、大学の存在を。要するに、研究機関とか学問の世界。だから、やっぱり犬山市民は、もうちょっとあれは反対すべきだったと僕は思っていますよ、京都大学縮小。モンキーセンターなんかも、物すごい観光になりますしね。明治村ももちろんのこと、リトルワールドも。名鉄と犬山市と組んで、やっぱり全国的にもうちょっと発信していきたいですね。

西村会長

ありがとうございます。

自分たちの中に、観光に関係ない市民は迷惑を感じるんじゃないかと、それは専門部会でどういうふうな議論があったのかということでしたけど、どうですか。

服部委員

まさに、本町の裏に住んでいる私としては、迷惑に感じる場所もあるわけですよ。住んでいる市民がやっぱりふだんから観光に親しんでいない、よそごとだと、商売人のための観光だというふうに思っていると、嫌なことばかりということになってしまうので。そうじゃない、やっぱり自分も参加している、参加しているというのは2通りあって、1つは犬山の文化とか歴史とか自然を愛していると、来てくれた人に知ってほしいと、だから聞かれたら答えられるとか。場合によってはボランティアガイドとか、そういう形で参加していくというのはもちろんあると思います。

それから、もう一つ、今回滞在型、体験型の観光にシフトしていこうといったときに、滞在や体験のメニューって誰が提供するんだといったときに、単なる業者だけではない、事業者だけではなくて、市民がやっているアクティビティというところにも参加していただくというのが、非常に体験型のメニューの

多様化という意味ではよくて、各地でも体験型の観光をやっているところは市民参加型でやっているというところがありますので、そういうところに市民が参加できるようになると。

そういう点では、まだ犬山のアクティビティというのはそういう形ではシフトし切れていないところがありますので、その2つのところに市民が参加していくことで我がことだというふうに思っていると、観光はやっぱり我慢しなきゃいけないところもある、市民にとって我慢していかないと、折り合いをつけていかないと観光というのは振興できないし、幼稚園・保育園を嫌がるとかあれと一緒に思うんですけども、自分たちのまちが持続的になるためには、こういうものもあって、それは自分も折り合いをつけながら生活していくんだというところの理解が進むかどうかというところが多分大事だと思う。

その辺りの、まさに梅川先生がおっしゃったみたいに、まちづくり会議に参加して行って観光のあり方を一緒に考えていく、そういう形で市民の参加度を高めて行って、最後は理解というところにつなげていくということが大事じゃないかと、その筋道をどうつけるのかというような議論をしてきたかなというふうに思います。

佐分委員

先日、実はうちの大学が中心になって犬山学研究センターというんですけども、その会議に市長も出ていただいているんですけど、私が申し上げた今回のテーマは、埋もれた遺跡を発掘する。あんまり知られていない、観光資源として知られていないというのに焦点を当てて、この間はシンポジウムをやったんですけど、という話で、私が申し上げたのは、犬山は文化都市ですし、これからはますます文化都市にしなければいけないんですけど、真の文化都市というのは、市民が住んでいるところの文化についてよく理解し、誇りに思い、語りたと思うまちだと思うと申し上げたんです。

だから、意識的にそういう活動をして、実は犬山城だけじゃないんだという、隠れキリシタンのものから、それから地層も含めて非常に多様な文化遺産があるのを説明し、おっしゃったとおり理想としては、暇な人はボランティアをやるうと、今でも英語でとかあるんですけど、ああいうのが市民に一般的に浸透していくというのが必要じゃないかなと思います。

西村会長

ありがとうございます。

ここから、少し指標みたいなものも生まれてくるかもしれないですね。

高橋委員どうぞ。

高橋委員

先ほど、誰がやるんだという話あったんですけど、決して主体的とは申しま

せん。できること一部分だと思いますけれども、商工会議所という立場としましては、実際にお金を出してくれる人、経験のある人、それから商売をしている人を引っ張るということは非常に一番やりやすい立場でございます。

しかしながら、今この宿泊を増やそうとしても、夜間が何もないということで、その夜間の楽しみを増やすには、やはり食べるところと飲むところがどうしても欲しいわけです。しかしながら、そのコンセプトだけはしっかり決めて何もかも取り組むんじゃなくて、しっかりとしたゾーンとコンセプトですね、文化と歴史に基づいた建物だったり景観だったり、そういったものの縛りをつくった上でパッケージングで、誰一人として自分一人だけで出ようとは思いません。こういう将来像があって、将来このゾーンはこうなりますよというものがあって初めて我々商売をやっている者というのは出やすいんですよ。だから、自分一人で、はい、どうですか、どうですかと出ようと思っても絶対出ません。

なので、将来が見えるような形で、このゾーンはいわゆるナイトライフには非常によくなるんだよ、将来的にはそういう構想できちんとした縛りもあって、周りの住民が嫌がるというような話もあったんですけども、縛りをきちんとつくって、そしてまちがきれいになっていけば、私はある程度共存はできるのかなという考えもありますし、ルールもつくって。

そういうものが、昔は上大本町、下大本町があったんですけども、そこにするかどうかは別としまして、そういったゾーンがやはり設定していただきたいなど。そうすると、我々は呼び込みやすいし、お金も突っ込みやすいんで、経験者はいっぱいいますからね。住んでいる私も楽しいかなと思って。そんなことでございます。

西村会長

ありがとうございます。

具体的なゾーニングみたいなものがあると、事業者としては次に投資がしやすいということですね。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

久世委員

すみません、質問です。

ターゲットのところで、いわゆる市民、市内在住者が入っていないのは何か理由があるのでしょうか。結構いるんですよ。

事務局

市内在住者というのは、当然ながら、現にお客様の中でもかなりの方がいらっしやっているので、ターゲットであるということは間違いはありません。表記としてそこは十分ではないので、少し検討させていただきます。

今でもマイクロツーリズムという話も出ていますが、市内の方に例えば体験メニューを体験していただくとか、市内の方に改めて市の文化財あるいは城下町のいろんなお店を楽しんでいただくというのは非常に重要だというのは認識して、また部会だとかいろんな場でも話が出ていますので、その辺りが、すみません、ちょっと表記が十分でないので、そこは取り組ませていただきます。

久世委員

必要性はあるけど表記が十分じゃなかったということなんですか。全く出てこないものですか、ほかの記述で。

だから、市民参加とは言いつつ、何かお客様を迎える側に強制されているような議論にも見えるんです。だけど、本来であれば市民だって楽しみたい、今、会議所の会頭がおっしゃったように自分も楽しみたいというところが基本だと思うんで。まず、市民に楽しんでいただく観光というのが本来原点だったはずなんですよね、近き者喜びてという話。だけど、すぼ一んとこれが抜けているので、ちょっとこれは大きな欠落じゃないかなと思います。

西村会長

ありがとうございます。

特に、コロナのときにやっぱり地元の人が愛してくれるようなお店が強いわけだから、その意味では、そういう危機管理というものも含めて地元が大事にしてくれないことには続かないということにもなりますね。

ありがとうございます。非常に重要な視点。

他にいかがですか。

柴田委員

今、僕も久世さんがまさにおっしゃったとおり、ターゲットが市民で、市民参加で、おもてなし、ホスピタリティというところで、私ずっと考えているのが市民が参加するという中で、佐分先生が大学生の話をしましたけど、私、城下町は子供たちが活躍する場、小学生、中学生、高校生、現に10年以上前、本当に城下町がさみしかったときに子供たちの夏祭りをやって、どんでん館の前で毎年子供たちが踊りを披露するというか、そうすればそこにお父さん、お母さんが来ますし、おじいちゃん、おばあちゃんが来ますので、そういった方がまちを散策する、犬山っていいところだなと思ってもらえるというのが一つのきっかけ。今でも犬山高校がからくりを披露したりとかしていますので、そういったところ、小学生、中学生、高校生もぜひ活躍する場というか、そういった機会もぜひこういった中に盛り込んでいただけたらなと思います。

西村会長

ありがとうございます。

地元の小・中・高校生も、この中のターゲットになったり主役になれるよう

な記述がやっぱり必要だろうということですね。

他にいかがでしょうか。

どうぞ、川委員、お願いいたします。

川委員

先ほど、梅川委員の方からイメージとして頭でっかち、それから推進体制というようなところと、これ難しいんだろうけどというお話があったんですが、その2つを聞いて思ったのはロードマップを少し示せるといいのかなと。

県の行政でもやはりいろんな計画をつくるんですけど、冒頭のところは現状があり、分析があり、課題がありと、そこまでは勢いよく行くんですが、そこから施策をつくる場所。それからその後、誰がやるのか、やはり予算の問題とか、主体がなかなか理解がされないということがあるんですけど、少しでもその辺ロードマップをつくっていければ、抽象的な書き方かもしれないですけど見えてくるのかなと。

ロードマップをつくと、多分概要版というのも一緒につくっていくんですけど、これだけページ数が多いと。その頭でっかちという問題も多少改善され、市民にも分かりやすくなるのかなということで、大変難しい問題だと思います。まず、財政当局含め、それから関係者含め、これはうちの仕事じゃないとか、そんな金はないとかいう話になると思うんですけど、許される範囲で入れると分かりやすくなるかなとちょっと思いました。以上です。

西村会長

ありがとうございます。

ロードマップ、それから概要版はどういう予定なんでしょうか。

事務局

考察自体は結構なボリュームになりますので、概要版をつくる予定でおります。A3の二つ折りで4ページぐらいでまとめられたらと思っておりますので、そこはコンパクトにまとめていきたいなと思っております。

西村会長

ロードマップはどうですか。それはなかなか、先ほどの推進主体の問題と絡むところもありますけれども。

事務局

推進主体については、非常に難しい部分は正直ございます。今、計画をつくる最中なんですけど、例えば庁内であったり、こういった場であったり、あるいは市民の方であったり、いろんな話をしていく中で、なかなか全て確定した中で決まったもの、これだけ決まりましたよとってお示しすることができません。

重点的にやっていきたいプロジェクトがあっても、そこに関係する人って絶

対出てくるんですけど、その全ての人の合意形成を取ってから計画書に載せるという多分載せられるものがほとんどなくなってしまいます。なので、そういった合意形成のプロセスも含めて、これは計画の中にチャレンジしていくんだということで載せていくものも多々ありますので、そうすると実施主体をどこまで書くかというのは非常に難しい。

先ほど、川委員が言っていたような感じで、ちょっと抽象的なところで表現をしていくというのは一つまとめ方としてはあるのかなというふうに思います。

あと、ロードマップについては、なかなか難しい部分もあります。もちろん財源の話もありますし、合意形成はどのぐらいの期間を取ってそこからスタートできるかというのがありますので非常に難しいですが、そちらも示せる範囲で一度検討をしてみます。

西村会長

普通、計画があってその上にマスタープランってあるんですけど、これはそのもっと上の戦略なので、そこでどこまで細かいことが言えるかというのはすごく難しい問題ですよ。むしろ非常に大きな方向性をここで指し示して、次の計画の中でちゃんとそれを実現していくというのが普通のスタイルなので、あまり厳しくそのところを問い詰められると戦略じゃなくなってしまう部分もありますのでね。それでも、やっぱりビジョンを明確に出してくるのも非常に大事じゃないかなと思います。

服部委員

補足として、資料8で戦略の評価と見直しというのを今回掲げていて、まさに部会でもそういう議論が出て、体制の明示とか、それからスケジュール、ロードマップという話はあったんですけども、今回のこれでどこまで書くのかということと、あまりに突き詰め過ぎて今度は動かなくなっても困るところがあって、実際にまず動かすのが大事だと、今日議論をいただいたところもまさにそうだと思うんですけども、実際に動かして行って、動かす中でいかに具体化していくかというのが非常に重要だと。

そういう意味では、この推進体制というのをしっかり整備して、それが動くような形にいかにかっていくかというところがそういうところにつながるんじゃないかと。推進体制の議論の中で、まさにロードマップでいかに斬新的に課題を明示していったり、体制の役割分担というのをはっきりさせていったりというところができるように、そこにつながるような体制整備をすべきなんじゃないかと、そこを重視しようというふうにしていました。

西村会長

それがこの提案になっているんですね。

服部委員

まだ十分な記述になっていないと思いますので、ご意見いただければと思います。

西村会長

あまり主体をぎりぎり突き詰めるんじゃなくて、体制ということでもうまく書こうと。

ありがとうございます。そういう話になってきますね。

梶山委員。

梶山委員

今までの議論とはちょっとずれちゃうかもしれませんが、事業者という立場から言いますと、一番最初の現状と課題の中で弱みがいろいろありますけれども、東京や関東、関西に行って帰ってくると感じるのは、やっぱり認知度の低さといいますか、最終目標が滞在を増やす、宿泊を増やすということになると、当然大きなマーケットはその2つになってきますので、やはりその部分、今回もいろいろコンセプトを策定したりされる中で、非常に世の中のSDGsの流れにもぴったりのコンセプトが出てきていますので、ここもうちょっと伝わりやすいようなストーリーにして、たまたま佐藤可士和さんのブランディングの話が出ていますけれども、ブランディング戦略というのを何か入れ込んでもらって。やる中身は当然いいんですけど、それを伝えない限りは誰も分かってくれないんで。待っていてもそれは各日本全国、地域との当然競争になりますので、その中でやはり犬山を知ってもらう、どうやってブランド価値を上げていくかというものの視点がもうちょっとあってもいいのかなという気はしました、全体の流れの中で言うと。

それからもう一つ、ターゲットの中で先ほど市民というお話もありましたけれども、もう一個、ちょっと具体的にいったものかどうかあれですけども、いわゆる特に我々インディゴをはじめやっているというのはある意味インバウンドの富裕層という、それは日本人も当然入っていいんですけども、そういう切り口のターゲットというんですかね。もっと文化に触れる感度の高いような人たちもターゲットの中に入れていく。そうすると、自ずとその人たちの口コミで広がって、それはビジネス、MICEの方に返ってくると思いますので、ブランド価値が上がってイメージアップというふうな流れができるんじゃないかなと。素材はありますので、その辺の伝え方というかそういうものもちょっとあるといいのかなというふうに感じました。

西村会長

2点ですね、1つは資料2の2ページですね、そのところにもう少しこのブランド価値、ここをどういう形でうまく知ってもらうかというようなこと

ろの弱みとといいますか、強みとといいますかというところを、特に例えば滞在とか企画という課題があるとなら、それにつながるような分析とか、そこが必要なんじゃないかと。

とりわけ、富裕層みたいなのがそういう意味ではターゲットになり得るわけなんで、市民の側にシフトするのも一つ重要だけど、一方でもう一つ海外というか、別のところのターゲットも同じように考えられるのではないかというように、まさに常日頃からの努力だと思いますので、非常に重要だと思います。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ、佐分さん。

佐分委員

前回も、今日もちょっと最初話題になったもので、犬山市というくくりがあるから仕方がないかもしれないけど、もう少し広域に考えるべきというのを前回申し上げました。それは、私が近隣の市町村の町長さん、それから商工会議所を回ると一番言われるのは、犬山がうらやましいと。放っておいても観光客が来るというふうにおっしゃるんですけど、私に言えば、それで犬山市がずっと何年もしていないし、もともと犬山は消費都市というかということだったので、むしろ逆にあれを利用するように考えられたらどうですかという話で、そうすると、一番に木曾川流域だよという共通性をどう捉えるか。それから、意外と大きいのが五条川の桜、これも大分古くなってきて、桜はやっぱり相当うまく利用すれば有名になると思います。

そういうものを滞在型ということで今、ここって自転車で走るのに有名らしいですね、その道の人たちには。そういうような形で、観光資源としてうまく伝えていく。それから、それぞれのところの特産物を、今もないわけじゃないんですが、城下町のところで積極的に宣伝して売り出していく努力はやっぱり、これは隣のまちのものだと言わずにやっぱり犬山がやるべきと、もともと消費都市としてあることだろうというふうに思っています。

加えて、愛知県さんがおられるからあれなんだけど、ちょっと言い方は乱暴だけど似たような悩みがあると思うんですね。要するに、滞在型じゃなくて通過されるという、昇龍道でやっておられるんですけど、今2つのことに注目しておるんですけど、1つはジブリパーク、これはもう世界どこに行ってもアニメは日本だけでイメージで非常に強いんで、これをどういうふうに一緒にコラボして犬山でできるかということが一つ。

それから、今、高級ホテルが名古屋市内に意識的に建てて、これはもう大きな国際会議を誘致するというふうなんですけど、そのときにじゃあ犬山に泊まろうという発想になるようにどれだけ認知度を名古屋市内とか愛知県への観光

関係者に意識させられるか。

驚いたんですけど、何年か前に実は和合のゴルフと鈴鹿のF1が重なって、愛知県下のホテルがほとんど取れなかったんです。名古屋大学が非常に困って、うちが聞いたら、犬山のホテルも、それから市内の安めのホテルもがらがないんですよ。愛知県下ほとんどないと言っているのに、これはやっぱり認知度が高くないなど。我々はいい顔をしましたけれども、さすがに犬山にある大学で顔が利く、顔を利かせたんでいいんだけど、空いていたんで、あのとき、私としてもショックでしたね。

だから、やっぱりちょっとそういうことを考えて、愛知県の観光戦略にうまく乗っかるというか、一緒にやるという発想が要ると思うし、他方で近隣のみんなが羨ましいと思っているところをうまくピックアップして。

西村会長

ありがとうございます。

広域の議論がもう少しあり得るのか。例えば、そういう広域のアンテナショップがまちの中にあるということは、お互いにとってもいい話ですよ。

他にいかがでしょうか。

ちょっといろいろな刺激的な意見が出て、まとめるの大変かもしれないですけど大丈夫ですかね。

服部委員

ちょっと部会の説明みたいなものばかり出たので、私の意見を少しだけ申し上げたいと思うんですが、部会の中ではまだまだ全てのことを議論し切れているわけではないというふうに思っています、やっぱりまず実行できるプランをつくらなきゃいけないという意味では、まず一歩進んでやって、議論の成熟を進めて先に行こうということを考えると、扱えないテーマも幾つかあるというふうには思っています。

やっぱり、成熟する中で次に議論してほしいという次なる課題みたいなものを少し意識しておいた方がいいかなと。これは今回書けるかどうかは別として、やっぱり大きな課題が幾つかあるのだらうと思います。

3つほどちょっとお話ししておきたいと思うんですが、1つは空間のデザインの質をどう上げていくかというのをやっぱりしっかり意識していかないといけないだらうというふうに思います。空間だけじゃなくてデザインの質を上げていく、デザインの全体的なレベルを上げていくというのは、空間をはじめとして観光のブランディングのときの商品開発とか、それから宣伝、PRというところも含めたデザインの質というのをある程度統一的なレベル、質というのを考えていく必要があると思います。

城下町の中で特に最近思うのは、緑のコントロールの質をいかに上げていく

のかというのはすごく大事なことじゃないかなと思っています。お城山なんかは結構きれいにさせていただいているんですけども、そのすぐ脇の郷瀬川の沿道とか、それから公園の緑とか、まだまだしっかり整備して川とのつながりとかやっていくと、今やっている川と緑と城下町というのをもっと意識していくことができるだろうというふうに思いますので、デザインの質の向上というのが一つあると思います。

それから、先ほど市民の参加、特に市民が楽しめる観光という話がありましたけれども、観光の、例えば本町とか、どちらかという観光寄りになっていて、昔あった市民の生活利便の施設が、店舗がどんどんなくなってきて、今ほとんどないわけですけども。そういう形で見ると、市民にとって普段使いできないまちというのが持続可能かということ、いろんな観光地を見ていると市民が普段使いしているものと観光施設が混ざっている、もしくは市民が普段から使っているから観光客が楽しめるというところもあるんですけども、犬山の城下町中心として市民の普段使いのための店舗や施設というのがいかに混在させていけるかというのが、次の段階で議論されていくといいんじゃないかなというふうに思っています。

最後に、交通の話なんですけれども、城下町の中にどれだけ自動車交通を入れていくのかというところは、また議論がさらに成熟していく中でやっぱり議論しないといけないだろうと。お城前のパーキングとかありますけれども、まさにあそこが今観光のための重要な交通の拠点になっているわけですけども、城下町の高質化を図っていくときに、どこまで車を入れていくんだらうというところは多分これから少し観光を進めた後でしっかりと議論しなきゃいけないんじゃないかというふうに思いますので、その辺り今回全て書き切るのにはなかなか難しいというふうに思っているんですけども、まさにその観光の議論を進めていく中で議論しておかなきゃいけない課題というのを持っておくというのは重要なことかなというふうに思っています。

西村会長

ありがとうございます。

ひょっとすると、例えば戦略の最後に残された課題とか、ちゃんとTODオリストみたいなのがあって忘れないように議論を今後するんだということが書いてあるといいかもしれないですね。ここでは、そこまで扱わないようにしたりね。

空間デザインの質の話、市民の普段使いの施設、交通問題、非常に重要な問題ですよ。

石田委員

僕、この年でこういう立場ですから変なこと言うかもしれませんが、非常

に高名なある物理学者が、今のリニア新幹線、あれはちょっとあんまりよくないと言っているんですね。どこがよくないかという、あのプロジェクトを進めようとする個人の顔が見えないと言うんですよ。あらゆる科学でも、あらゆる発明・発見でも必ずその原理原則をつかってそれを唱えた個人の顔が見えるんだけど、東海JRの新幹線、リニアに関しては個人の顔が少しも見えないと、それを物理学の専門家が言うんですからね。それは僕、ちょっと傾聴に値するなと思って聞いていましたけどね。

このプロジェクトは、西村先生の顔が見えないといかんですよね。僕ね、服部さんも犬山の最も優秀な市民です、この方は。その先生ですから、西村先生は、このコンビがやっぱり顔が見えるような計画にしてほしい。だから、先生から弟子ですから、服部さんの計画にちょっと厳しくチェックを入れる、それを望みます。西村イズムが分かるような計画を提案してください。

西村会長

ありがとうございます。

梅川さん、ちょっと振ってみましょう。梅川先生、何か一つ、何でもいいので。今の話じゃなくても、全然違う話でいいんですよ。

梅川委員

僕は、この戦略を作って本当に何をやりたいのかというところなんですよね、明確に。僕は、この重点プロジェクトの7つ、これをとにかくやりたい、やるんだという10年間の宣言というふうに理解しているんですけど、そうするとこの重点プロジェクトの構成を見ていくと、実はチャレンジする重点施策って細かなプロジェクトを串に刺したような形になっているんですね。そうすると、個別に重点施策をやっていくと実は個別最適にはなるんだけど、最終的に全体最適というのか、例えば6-1の「遊園ルネサンス」というプロジェクト、これ、僕はとても夢があって素晴らしいなと思っているんですが、個別のことをやっていくと、どうしてもその最適解を求めてしまって、全体としてこの遊園ルネサンスというプロジェクトが実現するのかというふうにちょっと心配なところがあって。

そうすると、重点プロジェクトごとに実は推進体制全体を見ている人がきちんといて、誰か分かりませんが、全体をコントロールするところがないとなかなか、今日資料8で出てきた推進体制だけでは実現できないんじゃないかなというのはちょっと懸念していて、この重点プロジェクトがそれぞれ動いてくると、多分市民の皆さんも面白そうだなと寄ってきて、自分も参画したいというような話にもなってくるだろうし、何か盛り上げのためにもこの重点プロジェクトを進め方というのをもうちょっと議論していただければなという感じはしていました。すみません、以上です。

西村会長

ありがとうございます。

非常に重要な提案で、これはもうプロジェクトというよりは、プロジェクトの前のコンセプトみたいな感じですよ。コンセプトというからにはもう少し本当に動く、じゃあそのために、だから誰がという話になるんでしょうけど、いろんなものがあると、非常に大きな流れを表現しているけれども、じゃあそれ一体何をやるのかと。多分、市民の人は、じゃあこれで何をやりたいのかというときに、例えば一言、二言でこれとこれとこれは大事ですよとかいうようなことがうまく伝えられないと、市民の間にうまく伝わらないかもしれませんね。そここのところが、非常にいいことは言うてあるんだけど、重点プロジェクトの柱の中をまたもうちょっと、その中の柱みたいなのが要るのかもしれないですね、多分ね。

分かりました。確かにおっしゃるように、このところはもう少し議論をやった方がいいかもしれませんね。すみませんが。

石田委員

それと、先生が市長によく話されているでしょう。刷り込まないかんですよ。市長、感度がいいですから、今の市長は。

西村会長

そういうことですね、それが大事だということを。

服部委員

今、梅川先生がおっしゃったことは、今の重点プロジェクトの書き方がパッケージにしているかのように見えるんだけど、結局出口のところは個別の施策だけが並んでいるように見えてしまう。パッケージ化して、いかに全体を統合して進めていくのかというところが全然見えていないということなんですよ。ね。

そういう意味では、それぞれの重点プロジェクトごとに本当は実行のためのプログラムとかというものを作り込んでいかないといけないし、多分そのプログラムオフィサーみたいな形でPOがしっかりついて責任を持ってそれを回していく。誰にそのPOの役目をしてもらうのかとか、そこと連携するリエゾンオフィサーが役所にいるのかとか、多分そういう体制をしっかり作らないといけないんじゃないかというご指摘だと思いますね。

だから、それもまさに一番最後の推進体制とも絡むところで、それを今後どうしていくのかというのをもう少し具体的にやっていくということが分かるような書き方をしないといけないんじゃないかなというふうに受け止めて、またもう少し部会で梅川先生と議論したいなと思います。

西村会長

多分、それは役所だけじゃなくて、先ほど最初におっしゃったように誰がやるというところもちゃんと見えるような形にした方がいいですよ。そういうことになってくると、みんなで作っているという感じがするので、空気が変わっても動き続けるというのがありますね。

ほか、いかがでしょうか。随分、濃い議論ですけど。

はい、どうぞ、川委員。

川委員

各論ですみませんが、今回のMICE、MIというものが強調されて出てきておるんですが、資料7の2ページ、一番下のところの行で名古屋へ来訪するビジネス客という書き方なんです、これはもう少し強いメッセージで名古屋へ来訪するというのを外して、ビジネス客を誘致するならすると。この第4期というところは、多分世界からも呼ぼうという段階かと思うんですが、インディゴもありますしというような書き方がいいのかなと思います。

もう一つ、MICEで思ったのが、資料5の8ページのところなんです、ユニークMICEという見出しでチャレンジする重点施策のところにはMIを中心としたMICE誘致の推進とあるんですが、間にある施策の方針というところに記載がなくて、例えば地元企業さん、犬山にも著名企業がたくさんある中で、地元企業さんと連携を市みたいの方ができれば、これはもう第4期を見据えてでもいいと思います。少し幅が広がるのかなというところを思いました。

それからもう一点、発信の部分なんです、今回書かれていないところでフィルムコミッションなんかがもうちょっと出てくるといいかなというところで、犬山が今、ロケを非常に頑張っていておられます。ロケ地として城下町があり、自然がありというようなところがなかなかなくて、ロケの聖地巡礼というところでもやっぱり、特にドラマですね、映画というよりはドラマで使われた街並みとかお店に行くというのがネットにいっぱい上がっているところがあって、フィルムコミッションなり、ロケ地を通じた犬山の魅力の発信というようなところも少し基本コンセプトの中に、施策の中に入れてくるといいのかなと、これはちょっと私が思ったところです。

石田委員

明治村のロケ、すごいですよ。市民のフィルムコミッションもしっかりしていますよ。

小川委員

それは、私も東京でフィルムコミッションを立ち上げたんですけども、石田さんに言われて今から十五、六年前にありました。それで神戸に行って、最初、明治村というのは本物じゃないと思ったんですね、映画監督が。東京に映

画監督、助監督が入っているビルがあるんです。そこへ説明しに行ったら1日で終わらなくて、1日のつもりが3泊になっちゃって、これ全部を紹介してあげたんです。それから、ロケが始まったら今度逆に大変でして、くぎを打ったりなんかするもんですから。それで、条件というのは何かというと、食事の世話だとか、そういったものを助ける。それから今、エキストラが百五、六十人に増えていますが、それで今は活発にやっています。

今、石田さんも言ったように明治村がすごいです、ロケが。それで、うちの女の子がそれを担当していますけれども、おかげさまで一生懸命、そちらの方は頑張らせていただいています。

石田委員

力がありますよ。

川委員

そうですね、そこが犬山の強みだと思いますので、何か書き込んでいけるといいかなということでした。

西村会長

ありがとうございます。MICEに関してですね。  
ほか、いかがでしょうか。  
そんなところで大丈夫ですか。梅川先生、何かよろしいですか。大丈夫ですか。

梅川先生

大丈夫です。

西村会長

随分たくさん意見をいただいたので、これが全部専門部会の方をお願いすることになって申し訳ないんですけど、いろんな形で私も可能であれば参加させていただいてということ。

恐らく次回が最終回ですけど、そこには冊子としての観光戦略というものを今日の資料をもう少し冊子体の形にしたときどうなるかというのをお示しできるといいのではないかと思います。

そのときにもまたご意見をいただけるとは思うんですけども、タイミングから言うとそこが最後になるので、大枠はなかなか変えようがないということなので、今日出たご意見、例えば人材育成だとか推進体制の問題、それから広域をどうするかというような問題、残された課題をどうするかというような問題、市民をどうするか、それから重点プロジェクトをもう少し明確にするとかいうような問題、それからブランド価値、ソフト分析をもうちょっと変えた方がいいんじゃないか、それから祭りとか土や風の部分がないんじゃないか、というようなことでもうちょっとやることがあるんじゃないか。それから、

地元の企業や地元の大学等の協力関係みたいなものでやれることもあるんじゃないかと。MICEの問題も出ました。

そういうことがかなり重要になってくると思うので、その辺りをまとめていくということで次につなげたいということによろしいですかね。

ありがとうございます。

それでは、全体としてそういうことで次に進めたいと思います。

それでは、議題以外でも何か、せっかくの機会ですでこのう場で何か問題提起やご発言があればと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいですか。

(意見なし)

西村会長

ありがとうございます。

それでは、全体としてたくさんご意見をいただきましたので議事はここまですべて、今後の進行は事務局からお願いしたいと思います。

事務局

西村会長、ありがとうございました。

また、各委員の皆様、いろいろ意見ありがとうございました。

多岐にわたって修正事項等々いろいろあり、回数も限られていますので、頑張って作り上げていきたいというふうに思っていますので、服部部会長もこれからまたご協力をいただきたいと、梅川先生も含めてご協力いただきたいと思っています。ありがとうございました。

それでは、次第の最後ですが「その他」です。次回の日程です。担当から報告ということでお願いします。

(事務局説明)

事務局

次回は年明けということで、またご協力よろしくお願いいいたします。

それでは、これをもちまして第4回犬山市観光戦略会議を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。今後も引き続きよろしくお願いいいたします。